

山手留守家庭児童育成室運営業務委託事業者評価シート（令和4年度）

1 育成室の概要

(1) 児童数・教室数（令和5年3月1日時点）

児童数 145 人（うち配慮を要する児童 3 人）					教室数	
内訳	1 年	2 年	3 年	4 年	5・6 年	4 教室
	53 人	35 人	45 人	12 人	0 人	

(2) 受託事業者

株式会社セリオ（契約期間：令和3年4月～令和8年3月）

他に受託している育成室（佐井寺育成室、東佐井寺育成室）

2 運営状況に対する評価

	評価項目・視点	評価点 (0～3)
1	児童との関わりについて ・指導員と児童との関係づくり、信頼関係構築など	3
2	保育内容について ・集団遊び等による自主性や社会性を培う取組など	3
3	運営体制について ・指導員の配置、知識・経験など	2
4	育成室環境について ・生活空間の確保、衛生環境など	2
5	おやつ提供について ・栄養バランスの配慮やアレルギー対応など	2
6	学習活動について ・宿題等の取組のためのスペース確保など	2
7	保護者・学校との連携について ・保護者や教職員との情報交換など	2
8	配慮を要する児童（障がいや有する児童）の保育について ・児童の発達段階に応じた適切な人員配置など	2

3 総合評価（所見）

- ①全体として、仕様書の内容を適正に履行し、事業目的を踏まえた保育や運営が良好に行われており、児童の健全育成に貢献している。
- ②保護者アンケートの「育成室を安心して利用することができる。」の設問で、「そう思う・少しそう思う」の回答を合わせて約99%であり非常に高い割合である。
- ③児童の主体性や協調性を伸ばすために、児童自ら率先して行動ができるように、日頃から児童同士が意見交換をできる環境を設定している。また、夏休み期間中の一日保育時には、外部の英語の先生やけん玉の先生を招くなど、独自の取組も行っている。
- ④業務実施状況報告書から読み取れることとして、指導員の入替りについては、個人的な事情等があるため一定の理解は示すが、児童や保護者との信頼関係の構築には継続的な雇用が望ましいため、今後もより一層事業者としての努力が求められる。